

# CAPA理事会及び総会報告 ネゴンボ（スリランカ）会議



アジア・太平洋会計士連盟（CAPA：Confederation of Asian and Pacific Accountants）の総会及び理事会が、2014年5月22日及び23日にスリランカのネゴンボで開催された。理事会には、10か国の代表（日本、インド、オーストラリア、カナダ、韓国、中国、スリランカ、ニュージーランド、パキスタン、バングラデシュ [米国は欠席]）、テクニカル・アドバイザー及びオブザーバーが出席し、総会には、上述の理事10か国の代表のほか、CAPAメンバー代表（フィリピン、ネパール、モンゴル [ベトナム、フィジー、パプアニューギニア、サモアは欠席]）及びCAPAアフィリエイト代表（英国 [フランスは欠席]）

が出席した。日本からは染葉真史（日本代表理事）、小林 俊（テクニカル・アドバイザー）が会議に出席した。以下、会議の概要を報告する。

## I 理事会

### 1. 各委員会からの活動報告

各委員会委員長より、最近の活動内容が報告された。

#### ① 会計職業専門家団体発展委員会（PAODC：Professional Accountancy Organization Development Committee）

PAODCは発展途上国にある会計職業専門家団体（PAO：Professional Accountancy Organization）を支援

するために設置された委員会である。今回の会議では、PAODCが公表した「会計職業専門家団体（PAO）発展のための成熟モデル」を利用したアジア各国のPAOへのアウトリーチの計画が説明された。このモデルは、PAOの発展のために重要な要素を、ガバナンス、品質保証、倫理等の16の主要な分野に分類し、PAOが各分野の発展の程度を4段階に自己評価できるように作成されており、PAOの更なる発展の計画策定等に役立つことが期待されている。

#### ② 公共部門財務管理委員会（PSFMC：Public Sector Financial Management Committee）

PSFMCは公共部門に関して、PAOによる財務管理の品質の向上を支援する委員会である。今回の会議では、2014年2月にフィリピンのマニラで開催されたアジア開発銀行、世界銀行、CAPAの合同フォーラム及びフィリピンの公会計の関係者とのラウンドテーブルの結果について報告がされた。また、今後の活動として、公共サービス分野における会計専門家の活躍に焦点を当てた公表物の作成を検討する予定である旨が報告された。

## 2. 世界銀行の能力開発プロジェクト進捗報告

本プロジェクトは、世界銀行が資金を提供し、CAPAが実施団体となってコンサルタントを採用し、CAPAの3つの加盟団体（モンゴル、フィリピン、ベトナム）に対して、継続的専門研修の制度向上を支援するプロジェクトである。

コンサルタントとして選任されている英国勅許公認会計士協会（ACCA）から、2014年第1四半期の進捗報告書が提示され、説明がなされた。当該報告書はPAODCにレビューされており、世界銀行の承認を得ている。

本プロジェクトは、2015年末までに完了することが見込まれており、これらの3か国のPAOだけでなく、各国で幅広く利用できるようなツールキットの作成が期待されている。

### 3. 今後の会議予定

次回の理事会及び総会は、2014年11月の世界会計士会議に合わせてローマで開催される予定である。世界銀行のイベントとの調整によって延期となっていた東京での理事会及び総会は、2015年5月に開催されることとなった。2015年10月には、4年に一度開催されるCAPA大会が韓国のソウルで予定されており、日本からも多くの参加が期待されている。

## II 総会

### 1. 2013年財務諸表及び外部監査人再任

2013年のCAPA財務諸表及び外部監査人の再任提案が提示され、承認された。2013年の総収入は38万6,126米ドル、総費用は37万9,582米ドルで、収支は6,544米ドルの余剰

となった。

## III 経済発展のための財務報告に関する会議

現地では、CAPA会議に先立ち、2014年5月20日及び21日に世界銀行、IFAC、CAPAの共催による「経済開発へ向けた財務報告に関する会議（Financial Reporting For Economic Development Conference）」が開催された。

この会議は、経済開発の促進のための会計及び監査の役割及び重要性、並びに財務報告サプライチェーン全体の重要性に関して、主に、南アジアの会計プロフェッション、規制当局、及び政策決定者にその認識を高めてもらうことを目的としており、今回、初めて開催されたものである。南アジアを中心とした各国の会計プロフェッション等が約200名参加し、世界銀行、OECD、IFAC、CAPA、及び会計士団体からの代表がパネリストとして講演及びパネルディスカッションを行い、活発な議論が交わされ成功裏に終了した。メインスポンサーである世界銀行は、2015年以降も定期的なイベントとしてこの会議を開催することを前向きに検討するとのことである。

（常務理事／CAPA日本代表理事

染葉真史）

（事務局／CAPAテクニカル・アドバイザー

小林 俊）